

モノが自由に言える地域社会の構築を

大庭 康一

〔質疑〕白石の多くの市民は行政や権力にモノを言わない方が得をする。言えば損をするという風土、白石の常識が定着しているように思えてならない。権力におびえるまち、権力による連作障害と言えらると思う。市民に存在する澱んだ市政に対する“しらけ”

うっ積した不満を解消するところが如何なる政策課題より優先すべきものと考ええる。市民の行政参加は民間の活力からであり、抑圧や沈黙の世界からは生まれえない。自由にモノが言える明るい市政を構築することが、白石の活力を取り戻す唯一の手段である。「私

の質問は市長の政治姿勢を聞いているので助役と相談することなく、市長の口で答えてもらいたい。「柔軟なる発想に富む若い首長の特権である若いリーダーとしての市長の認識を伺いたい。」

〔答弁〕これは何度も、十二月、二月、六月議会に同様の質問があり、その都度答えているとおりであります。ぜひ私の理念をご理解いただき、心配になることはないと思うが、ぜひとも私の理念を生かして、共に汗を流し協力して、人にやさしいまちづくり、住み続

けたいまちづくりを、一緒に目指していきましょう。必要に応じて助役には、参考的意見を聞いているが、自分の口で述べている。

※参考(平成十六年十二月議会答弁)

白石の政治風土、人間社会を排他的、閉鎖的と言われる点は、私はそのようなことがあるとはまだ思っていない。

〔その他の質問〕特定の人にて構成政治団体である後援会などの共催による祝賀会について

市の今後の財政状況について

高橋 鈍 斎

〔質疑〕繰上償還については、今後も続けるのか。合併出来ない自治体の交付金減額はどれぐらいなのか。水道事業で今後旧町内の老朽管布設費の予算はいくらか。刈田病院の起債返済が本格的になると市の繰上額はいくらか。

今回の監査委員の厳しいと報告を市長はどう受け止めるか。現在行なわれている第三次行革を財政改革に切替える考えはないのか。

〔答弁〕繰上償還は、銀行等取引地方債で、利率の高い起債を繰上償還し、低い利率のものを借り入れる財政運営を行ってきた。現在、未償還で一番高い利率が一、九七％である。また、現在の借入利率が一、五％から一、六％であるので、今後の利率を見て、判断したい。

現在のところ、交付金減額の情報は無い。

水道事業は、調査費を九月予算に要求しており、認められれば調査を行い、概算事業

費を算定する。この調査に基づいて老朽管等の布設がえの計画書を作成し、安全でおいしい水を供給していきたい。

刈田病院の償還は平成十七年度が約七億九千七百万円、平成十八年度は七億二千三百万円、平成十九年度は六億九百万円ほどになり、市が病院建設にかかる一市二町組合に繰り出す額も少なくなる。

監査委員の報告云々については、第三次行革改革で、既に財政面などあらゆる側面でもよりわかりやすい数値目標を

設定し、財政の健全化及び自主財源の確保に向けて推進を図っている。

〔その他の質問〕
すまいるひろばについて

